

Economic Indicators

発表日: 2023年8月31日(木)

鉱工業生産(2023年7月)

～7月は2か月ぶりの低下、基調判断も「一進一退」へ引き下げ～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
22年	1月	▲0.8	▲0.7	▲0.9	▲1.8	▲0.5	5.9	1.3	6.4	1.5	7.7	▲1.0	▲5.0
	2月	1.3	0.0	0.6	▲1.9	1.8	8.6	0.5	8.7	▲2.2	1.1	0.5	▲3.6
	3月	▲0.3	▲1.6	0.7	▲2.7	▲0.4	7.9	▲0.1	10.0	0.4	5.9	▲0.5	▲5.6
	4月	▲0.4	▲4.7	0.3	▲4.6	▲3.5	4.4	▲1.6	8.0	2.2	▲0.6	0.7	▲5.6
	5月	▲4.4	▲2.7	▲3.8	▲3.3	0.5	4.5	3.4	8.5	0.1	2.2	▲1.0	▲3.4
	6月	5.0	▲3.0	3.2	▲3.3	1.5	4.7	▲0.7	8.6	2.3	2.6	1.4	▲3.2
	7月	0.6	▲1.8	0.7	▲2.1	0.7	5.1	1.4	10.4	4.5	9.6	1.1	▲1.5
	8月	1.4	5.7	0.8	5.5	1.1	6.2	▲0.3	4.9	5.8	18.8	▲0.5	8.9
	9月	▲0.5	8.7	▲0.7	9.6	1.7	6.2	2.8	5.0	▲5.4	13.4	▲0.3	18.0
	10月	▲1.7	3.1	▲0.6	4.7	▲0.2	5.0	▲1.5	3.7	▲1.7	10.6	1.5	7.2
	11月	0.0	▲1.4	▲0.4	▲0.8	0.0	3.5	1.3	6.6	▲3.9	2.5	▲0.9	1.9
	12月	▲0.6	▲2.2	▲1.2	▲3.1	▲0.1	2.7	2.2	10.5	2.7	3.9	0.2	0.0
23年	1月	▲3.9	▲2.8	▲3.2	▲2.9	▲0.7	2.4	2.0	9.6	▲10.6	▲5.2	▲2.5	1.2
	2月	3.7	▲0.6	4.3	0.7	1.0	1.6	▲1.6	5.9	7.2	2.2	4.9	4.1
	3月	0.3	▲0.8	0.9	0.0	0.4	2.3	1.3	8.8	▲1.8	▲0.1	0.8	5.5
	4月	0.7	▲0.7	▲0.2	▲1.3	▲0.1	6.0	1.8	12.5	1.1	▲2.9	0.7	3.9
	5月	▲2.2	4.2	▲1.1	4.0	1.8	7.3	1.5	8.8	2.6	3.0	1.6	9.9
	6月	2.4	0.0	1.6	0.8	0.2	5.9	▲0.8	10.3	▲0.6	▲1.5	▲1.6	5.0
	7月	▲2.0	▲2.5	▲2.1	▲2.0	0.9	6.0	2.9	11.9	▲4.5	▲10.1	▲1.8	1.8
	8月	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9月	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)23年8月、9月は、製造工業生産予測調査の数値

○7月は事前予想を下回る低下

経済産業省から公表された23年7月の鉱工業生産は、前月比▲2.0%と2か月ぶりの低下となった。経済産業省の予測指数補正值(前月比▲2.7%)は上回ったものの、事前の市場予想(前月比▲1.4%)は下回る結果となった。業種別には、自動車工業の持ち直しが続く一方で(前月比+0.6%、前月比寄与度+0.08%pt)、生産用機械(前月比▲4.8%、前月比寄与度▲0.42%pt)、電子・デバイス(前月比▲5.1%、前月比寄与度▲0.28%pt)、汎用・業務用機械(前月比▲3.3%、前月比寄与度▲0.25%pt)等が、前月までの反動もあり低下に転じた。

今回の結果を受けて、経済産業省の基調判断は「一進一退」に引き下げとなった。7月は実質輸出の持ち直しが続いていたことから、筆者を含め一部では生産の堅調さが続くことに期待する見方もあったが、予想以上の低下幅にその期待は裏切られる形となった。後述の通り8月、9月の予測指数も今後の足踏みが示唆される内容となっており、鉱工業生産がはっきりと回復するまでにはまだ時間がかかる状況と言えよう。

○自動車の上昇に一服感がにじみ、生産全体も一進一退の動き

同時に公表された製造工業予測指数は、8月が前月比+2.6%、9月が同+2.4%となった。一見強



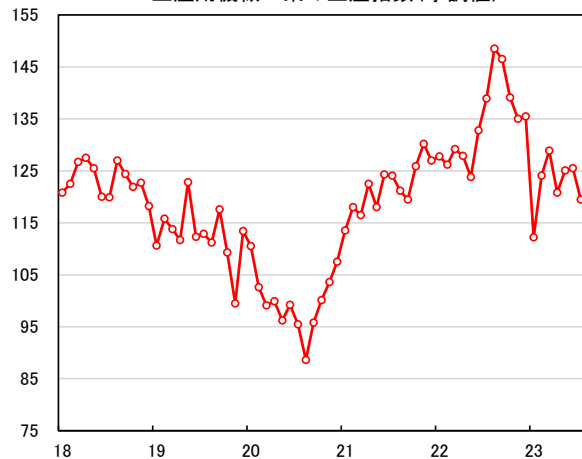
い数値にみえるが、予測指数には上振れバイアスがある点に注意が必要だ。こうしたバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、8月は同▲1.4%の低下が見込まれる。7月の落ち込み（同▲2.0%）の後としてはかなり慎重な予想となっており、仮に8月が経産省試算値通りとなれば、7-8月平均の生産は4-6月期対比で▲1.8%pt 下回る。7-9月期は2四半期ぶりの減産となる可能性がある。

持ち直しの牽引役となってきた輸送用機器についても、今後はその回復ペースは鈍化しそうだ。輸送用機器については、7月に前月比+0.6%となったあと、生産計画では8月同▲3.0%、9月同+2.4%と横ばい程度の推移が見込まれている。自動車生産の上昇一服に伴い、鉱工業生産全体もブレーキがかかりはじめている状況といえよう。海外における金融引き締め長期化により、10月以降も国外財需要の鈍化によって実質輸出も伸び悩む可能性が高い中、日本の生産も順調とは予想しがたく、今後の生産の回復ペースは抑制される可能性が高い。鉱工業生産は当面下押し圧力の強い状況が続くとみられる。

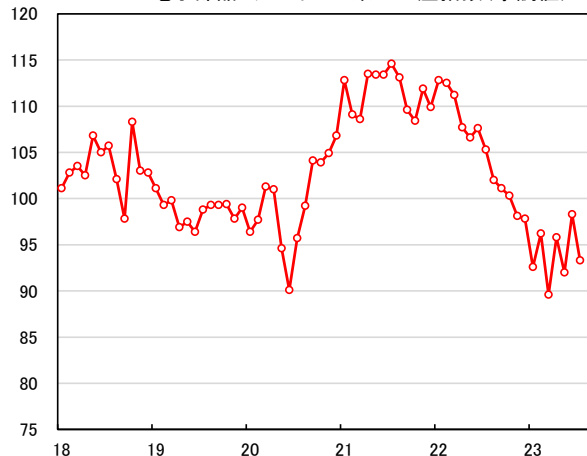
(20年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



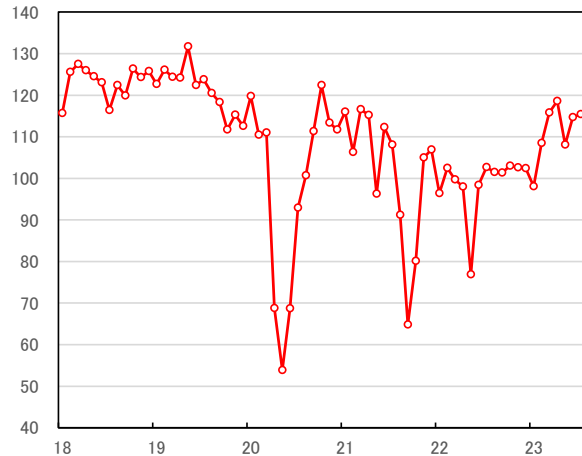
(20年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 自動車工業の生産指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。